

## 第35号

令和5(2023)年2月17日発行

会員募集中

年会費 3,000円

10月以降入会 1,500円

## 日蓮宗と不受不施派

会員 井上 秀男

### 1 日蓮宗（法華宗）と備前法華について

鎌倉仏教で日蓮宗の開祖として日蓮がいる。後に立正大師と称される。日蓮は貞応元年（1222）安房国（現千葉県）東条郡小湊の漁師の家に生まれた。多くの名僧の出自は名門や豪族の人達が多く、日蓮のように庶民の出身者は珍しい。日蓮は幸運にも生誕地の近くに天台宗の清澄寺があつて12歳で入山し、住持の道善房に読み書きの基本から教わり、16歳で出家し是聖房蓮長と名乗る。

清澄寺では修学に訪れる人もなく、蓮長は修学のため鎌倉や京都をめぐり比叡山に登った。そこを拠点に園城寺、高野山、四天王寺の門も潜ったが、延暦寺に帰山して天台宗の宗旨とする法華一乘の思想を学ぶ中で法華経の真髓に触れ、これこそが釈尊の教え=正法であるとの確信を得て、建

長5年（1253）32歳で清澄寺に帰った。蓮長は奥山にて禪定三昧の行を続け、法華信仰を広める決意をし、清澄寺に参集する人々に仏法の真実は「南無妙法蓮華経」の他にないと説いた。

岡山県内では県南に日蓮宗が多く、昔から「妹尾千軒皆法華」とか「備前法華に安芸門徒」という言葉があった。江戸時代の寛永10年（1633）頃の資料によると、備前の法華宗寺院は全体で33箇寺、この内21箇寺が京都・妙覚寺派、備中では38箇寺の内京都・妙顯寺派が33箇寺という多数を占めていたとされる。日蓮宗の靈場として、備前の日応寺、備中野山の具足山妙本寺（上房郡吉備中央町）、備後の常国寺（福山市熊野）が有名である。

岡山県に法華宗をもたらしたのは大覚大僧正で

## 歴・研・展・望

岡山歴史研究会の10周年記念講演で、岡山大学学長の横野先生から貴重な話を伺った。高校生の時アメリカに留学し、楽天的にものを考える習慣が身についたという。高校時代、受験勉強よりもどう生きるべきかに悩んでいた私にとってうらやましい限りである。

倉敷中央病院に京都大学の卒業生が多いのは、京大総長の荒木寅三郎（東大出身で岡山でも教鞭をとった）が大原孫三郎に依頼されて作ったからとのこと、疑問が解けた。今回の新型コロナウィルスの感染症の流行はワクチンのお陰でかなり抑えられたと話され、確かに、100年前のスペイン風邪に比べ死亡率は1/10以下である。医学の進歩

は有り難い。

アフターコロナにおいては、地域の事は地域で解決する地域循環共生圏の実現が必要とのこと、興味深い話であった。東京一極集中の弊害を除くためにも同感した。長生きするのも健康寿命を延ばすことが大事で、そのためには、運動習慣、食習慣が大事のこと。身につまされる歳になってきた。学長の要職にありながら、謙虚な人柄がにじみ出た講演であったことに深く感銘した。

歴史は単に知るだけ、物知りになるだけでなく生かすことが大切と締めくくられた。そう思うことしきりのこの頃である。

（楠 敏明）



具足山妙本寺山門

ある。永仁5年（1297）生まれで日蓮の高弟日像の弟子であり、近衛經忠の子であるとか、後醍醐天皇の皇子説などがある。大覚大僧正は妙本寺を拠点として、美作、備後方面にも布教活動を行い、開基寺院は40箇寺に及んでいる。

岡山県内の各地を歩いていると、法華宗の寺院の境内等で自然石や石碑に「南無妙法蓮華教」の文字が刻まれた石碑を見かける。俗に題目石と呼ばれている。これらの題目石は大覚が布教活動をしていった時代を実証するものであり、題目7文字の内、「法」の字を除く6文字の筆跡が鋭く伸びて髭のように見えるため、髭題目と呼ばれている。

県内で大覚大僧正自筆の題目石として有名なものが3基ある。まず、和気郡佐伯町（現和気町）益原の法泉寺にある康永元年（1342）9月7日の年月日が刻まれているもの。次に、御野郡一宮西辛川（現岡山市北区西辛川）の妙蓮寺にあったもの。これは、寛文7年（1667）に同寺を廃寺にするため、池田家が没収して上道郡富山村大字円



総社・大覚寺の題目石

山（現岡山市中区円山）の曹源寺内の大光院に移転したものであり、康永4年（1345）3月10日の年月日が刻まれている。3番目は、都窪郡清音村輕部（現総社市清音輕部）の大覚寺にある題目石で、りょうくおう 墓碑（1342）

まこと 蕤賓（陰曆5月のこと）の銘が刻まれ、県指定文化財となっている。なお、暦応は北朝の光明天皇の時代の年号であり、暦応5年4月27日に康永と改元されたので暦応5年5月はないが、都鄙の交通が不便な頃であり、かつ南北朝という混乱の時代であったことから、改元のことが伝わっていないかったためであろうとされる。

備前の法華寺院の最初は、大覚大僧正が牛窓から御野郡浜野に来て、多田氏の保護を受けてできた松寿寺である。また、今の岡山市北区二日市町に妙勝寺を創立した。さらに、当時西備前守護職であった松田氏の法華宗への帰依を受け、妙善寺の前身の福輪寺が大覚大僧正の布教によって法華宗に改宗した。西国一の道場と言われた蓮昌寺も松田氏によって建立されている。この蓮昌寺には宇喜多直家の室、阿鮮夫人の過去帳があり、宇喜多氏御前 法名阿鮮大姉 文禄3年（1594）12月11日没と記されている。

宇喜多家臣の花房氏、戸川氏等も熱心な日蓮宗の信者である。戸川達安は、自分の信仰する日蓮宗に改宗させるため強制的な行動を取り、改宗しない寺院に放火等を行ったと言われている。岡山市南区妹尾に、庭瀬領主の戸川達安が開創した日蓮宗の寺院がある。啓運山盛隆寺である。参道入口にある仁王門、堂々たる本堂の周囲には三十番神堂や観音堂、鐘楼堂など堂宇が並ぶ。参道左手には日蓮宗の宗祖日蓮聖人の銅像が目に入る。本堂の裏側に戸川家代々の墓石が建っている。岡山市北区高松の花房氏も日蓮宗信者で、箕島領内の正福寺、香海寺と領民達を日蓮宗に改宗させている。

池田藩による寛文の宗教弾圧の寺院破却などによって、備前から追放された僧侶達が戸川領に



啓運山盛隆寺本堂

入ったとされ、花尻の妙伝寺、立成寺、妹尾の淨園院、早島の妙法寺等の寺院がその後移転再興されたものと言われている。日蓮宗が県内に広がった中で日蓮宗と関係の深かった人物や寺院がある。

## 2 不受不施派について

日蓮宗の一派に、京都・妙覚寺の日奥にちおうが祖である不受不施派がある。不受不施とは法華経の信者以外の者からの布施供養など一切受けず、法華宗の僧侶以外には布施供養を一切しないとする厳しい宗制のことである。日奥は安国院または仏性院とも称す。永禄8年（1565）に京都町衆の豪商辻藤兵衛の子として生まれる。12歳の頃、京都・妙覚寺20世日典につき出家、研学を積んで日典に才能を高く評価され、文禄元年（1592）28歳で妙覚寺の21世を継いだ。

その後文禄4年（1595）、豊臣秀吉が京都東山の方廣寺大仏殿において千僧供養の法要を営むので日蓮宗の僧侶にも出仕するように命じた。しかし、日蓮宗の中に出仕を受け入れて宗門を守ろうとする受不施派と、出仕を断って不受不施の宗制を守るべきという不受不施派に分裂して対立が生じ、受不施派は京都・本満寺の日重とその同志で、京都法華宗本山16箇寺中14箇寺が従った。この時に不受不施の立場を通した妙覚寺の日奥と本國寺（現本圓寺）日禎上人にっしんじゆじんが不出仕を主張したが、2人とも受け入れられず、日奥は妙覚寺を退去して丹波小泉に移り住む。千僧供養会の後も受不施派と不受不施派の対立、論争が続く中で、慶長4年（1599）徳川家康による不受不施派の日奥、日禎上人等と受布施派の日乾との対論が大阪城内で行われた。この時も不受不施の立場を主張した日奥は、翌慶長5年、家康の直裁によって対馬に13年間流罪になる。

その後寛永3年（1626）9月、徳川2代將軍秀忠の夫人浅井氏の菩提のため各宗僧による諷經ふうきようがあつたが、池上本門寺の日樹聖人は出仕しなかつた。この件で身延山の日蓮宗と池上の日蓮宗が対立し互いに論議となる。受不施派と不受不施派との対立で、寛永7年（1630）2月、両者を江戸城内で対論させ、不受不施派の敗論として池上本門寺派の日樹聖人を流刑に処した。池上、鎌倉

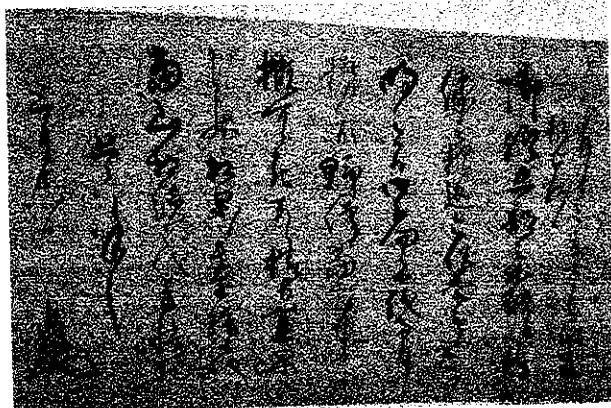
両山の貫首を取り消しの上、信濃国飯田城主脇坂安政に預けられて伊那谷に流謫るさくされた。日樹聖人は現在の倉敷市玉島黒崎屋守で生まれ、父は吉田八郎左衛門通次である。日樹聖人については、玉島の郷土史本『黒崎の郷土史』（遠藤堅三著、2007年）の269ページを参照して頂きたい。

秀吉の千僧供養の際に日奥と共に不受不施の立場を貫いた日禎上人は、権大納言広橋国光の息男として永禄4年（1561）に生まれ、14歳で京都・本國寺の日栖上人に師事。その4年後18歳で、日栖上人高齢による隠退によって本國寺の法灯を継ぐ。大阪城討論において不受不施の立場を通して本國寺を退去して嵯峨の小倉山に隠棲している。日禎上人38歳の頃で、土地を提供したのは角倉了以である。その当時周辺の土地を所有していたのは、土倉で日禎上人と親交のあった角倉了以とその岳父の栄可という人物で、角倉了以は丹波保津川に舟運を開く工事を始めていた。

それに先立ち日禎上人は、本國寺在任中に備前国浦伊部の当時豪商であった来住法悦と親交があったので、法悦に依頼して配下の船大工、船頭衆を集めて丹波保津川の舟運工事を支援して、慶長11年頃工事を完成させている。備前国吉井川などで運行していた高瀬舟が京都の高瀬舟の原型になっており、平底舟を作る船大工の技術を教えたとされる。

## 3 妙圓寺と来住法悦と日禎上人

備前市浦伊部にある日蓮宗の淨光山妙圓寺は、草創は平安時代の永長元年（1096）多田山妙圓寺と称した天台宗の寺院で、その後貞治5年（1366）、



日禎上人の来住法悦宛文書

京都・本國寺第5世大円院日伝上人が日蓮宗を西国布教の途中で浦伊部明鏡寺に立ち寄り、当時の住職乗蓮らと3昼夜に及ぶ法論を行った結果、日蓮宗に改宗して名を「淨光山妙圓寺」と称す。住職乗蓮自身も改宗、日伝上人の弟子となり名を久遠院日乘と改め妙圓寺第2世となっている。以後寺運は栄え、播磨、備前にわたって末寺16箇寺、7院、9坊を有し、七堂伽藍が並び立つ大寺院になったが、室町時代になって天災、戦火のために諸堂のすべてを焼失した。

天正8年（1580）頃に妙圓寺の信徒浦伊部の来住法悦が妙圓寺の諸堂復興を企て、京都・本國寺第16世究竟院日禪僧正を招請し、寺の復興を果たすことができたと妙圓寺縁起に記してある。妙圓寺と来住法悦、日禪上人の関係は深く、日禪上人が来住法悦に宛てた文書が岡山県立博物館に所蔵されている。この写真の文面の内容は「野僧も当年中大概死すべく存じ候、勢力尽き果て候自然相果て候は遠路の儀候へ共、当山相続の儀芳情頼み入り申し候」・・・とある。当山とは京都・本國寺とすれば、日禪上人が慶長4年（1599）の大坂城対論で不受不施派の敗北となり、権力者に屈して京都・本國寺を退去する頃の来住法悦に宛てた手紙文と思われる。慶長5年4月頃と推定されている。この文書については、岡山県立博物館の館蔵優品図録103ページ（73-A）の文章を参考にさせて頂いた。

#### 4 不受不施派の弾圧

次に池田光政の宗教政策と不受不施派の弾圧について述べる。池田光政は寛文6年に寺社対策を実施する。主なものは、寺院淘汰、神社整理（寄宮）、キリストン神職請制度の採用等で、領内563箇寺を73とし、847人の僧侶を追放する。江戸幕府は島原の乱後、宗門<sup>からため</sup>改を実施するよう命じた。岡山藩でこの対象となったのはキリスト教や不受不施派も含まれ、寺院に宗門改入別帳や寺請証文を作らせて、キリスト教徒や不受不施派ではないことを証明する権限を与えた。

光政の寺院淘汰によって不受不施派に弾圧の波が迫る。法難と呼ばれている。和気郡和気町矢田にある本久寺の僧侶了円日闇が藩の役人につかま

り、岡山藩に護送されることになった。これを知った不受不施派の信者の村民、河本喜右衛門（39歳）、河本仁兵衛（32歳）、金島五良右衛門（27歳）、花房七太夫（31歳）、河本五兵衛（65歳）の5名は日闇と同行し、岡山藩で不受不施派の正義を堂々と述べ、「いかなる刑に処せられるも断じてこの信仰は変えない」と所信を表明した。岡山藩は他への見せしめとして寛文8年（1668）6月18日、岡山の旭川沿い柳原の処刑場で日闇と行動を共にした5名の信者も処刑し、その10日後、処刑された者の家族、親族等28名を岡山泰行所に召し出して流罪にした。その中には1～2歳の幼児までも含まれ、弾圧の厳しさを表すもので、これらの流罪になった人達を28人衆と呼んでいる。

和気町の不受不施派の僧に日勢がいる。御津郡建部の二宮新兵衛の孫で、8歳で出家して本久寺の塔頭堅住坊に入った。寛文7年（1667）日闇が捕えられると、幕府の方針に強く反発して寺を出て、4人の女性信徒と共に断食入定の地を求めて歩いていた。久米郡佐良山村福田の地に辿り着く。そこの東塚古墳の玄室に入り、4人とも断食をして果てた。俗に福田の5人衆と呼ばれている。この僧日勢の法名が、御津郡金川の妙覚寺の過去帳に記されている。堅住院日勢大徳位、備前佐伯本久寺の出とされ、4人の女性殉教者については、御津郡大田の田渕家の過去帳に妙意日現（34歳）、妙定日意（21歳）、妙現日定（22歳）、妙勢日須（42歳）と記されている。

不受不施派の法難として、宝曆、享和、天保法難、門田法難、山田法難、益原法難が県内の記録として知られている。

#### 5 終わりに

今回、日蓮宗と不受不施派について寄稿させて頂いた。そして、私なりに県内における不受不施派と日蓮宗の歴史の成り立ちを調べ、関係する人物等の中に備前、備中の出身者が多いことを知った。また、日蓮宗の名刹である吉備中央町の具足山妙本寺、備前市浦伊部の淨光山妙圓寺、岡山市南区妹尾の啓運山盛隆寺を訪れていたこともあり、改めて各寺院の歴史の深さを知ることができた。

# 楯築遺跡と吉備津彦命の時代考察

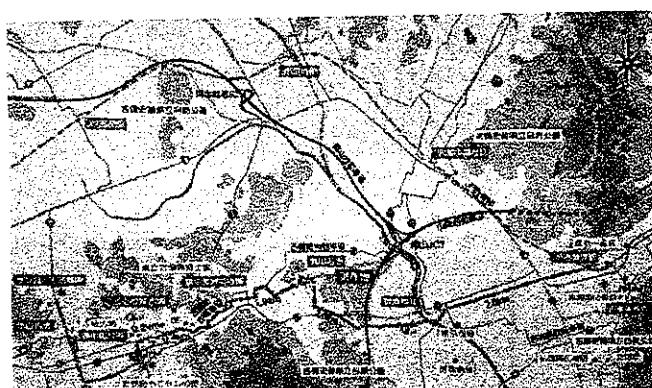
楠 敏明（会長）

## はじめに

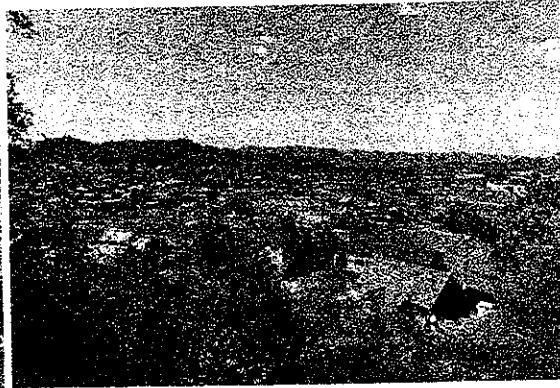
倉敷市矢部地区にあり、地元、日畠・西山地区の氏神様として千数百年に亘って祀られてきた楯築弥生墳丘墓に埋葬された人物が活躍した時代と、吉備津神社に祀られている吉備津彦命が活躍した時代には2～3百年の時間差がある。だが、両者には意外な関係がある。

第7代孝靈天皇の皇子である彦五十狭芥彦命

（ひこいさせりひこのみこと、吉備津彦命）が吉備国に派遣されて、鬼の城の麓に居住する温羅と戦ったとされる頃、高梁川は総社方面から吉備津方面に向け流れていた。鬼の城の山頂から眺めでみると大河の流れの跡がはつきりわかる。このことが楯築弥生墳丘墓と吉備津彦命を結びつけることになった。



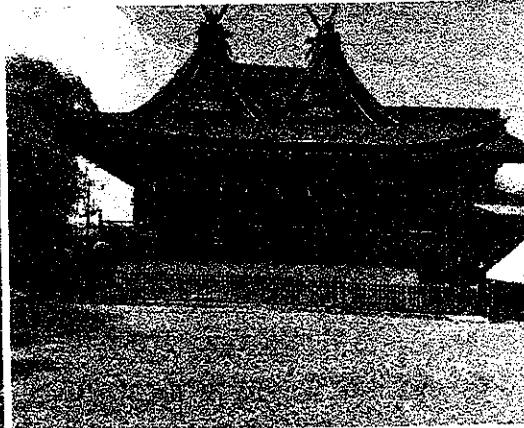
古代吉備の国を中心部



楯築遺跡から見た鬼の城方向



楯築遺跡



吉備津神社

## 楯築弥生墳丘墓

楯築弥生墳丘墓については、昭和51年～平成元年に、岡山大学考古学研究室の近藤義郎教授を中心に7次に亘る発掘調査が行われ、さまざまなことが分かった。西暦200年前後に作られた墳丘墓であり、直径約40mの円形の埋葬地と、2か所に突出した部分（約20m）からなる地山の形状を利用して作った墳丘墓であること（弥生時代終末期

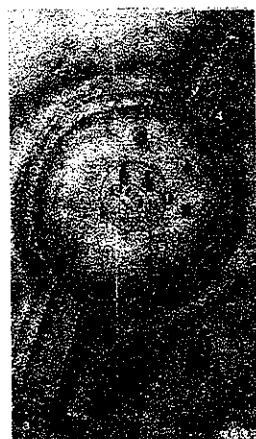
の3世紀後半以降に作られた盛土をもつ墓を古墳とし、区別するために墳丘墓と呼称される）、木棺木槨式墳丘墓であること、埋葬された人は32kgの水銀朱が敷き詰められた上に埋葬されていたこと、首と思われる箇所に勾玉が鏤められていたこと、また、副葬品に鉄剣があったこと、そして特殊器台が壊れて埋葬されていたこと、さらに楯築神社に祀られてきた弧帶文がある御神体よりや小

ぶりで、御神体にあるのと同じ弧帶文があり破砕されて埋葬された石が発見されたこと、等である。

これにより、御神体が約1,800年前に制作されたものと判明し、国の重要文化財に指定された。見学者に「これが本物で、東京国立博物館にある

のはレプリカです」と説明すると一様に驚かれる。

また、楯築神社から約500m離れた足守川の上流にある鯉喰神社からも同じ弧帶文の文様の石片が見つかり、鯉喰神社も弥生墳丘墓であることが分かった。



楯築墳丘墓の形状(復元図)



埋葬状況



埋葬の水銀朱



埋葬されていた御神体類似品



御神体（弧帶文がある）



特殊器台

### 楯築神社の最初の名前

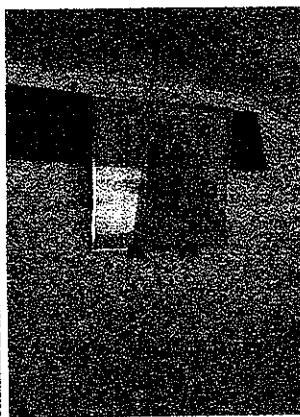
楯築神社の参道の鳥居の額が落ちて紛失していたが、すぐ側から見つかり、拓本を探ったところ、楯築神社とは異なる「○○宮」と書いてあった。この鳥居がいつの時代に建てられたかは不明だが、楯築宮とは異なる文字であった。よって、最初は、「○○宮」が本来の名称だと考えられる。

最初の文字は、偏は「手偏」、旁は「盾」。木偏ならば「楯」となるが、大漢和辞典（諸橋轍次編）によると「手偏」に旁に「盾」の字がある。意味は、なぐさめる、したがう、という意味である。次の文字は想像するに「衝」の文字。交通の要衝等に使われる「衝」の文字である。大事な場所という

意味である。訓読みでは、「衝く」とも読む。「宮」は神社あるいは皇居である。総合して、「なぐさ



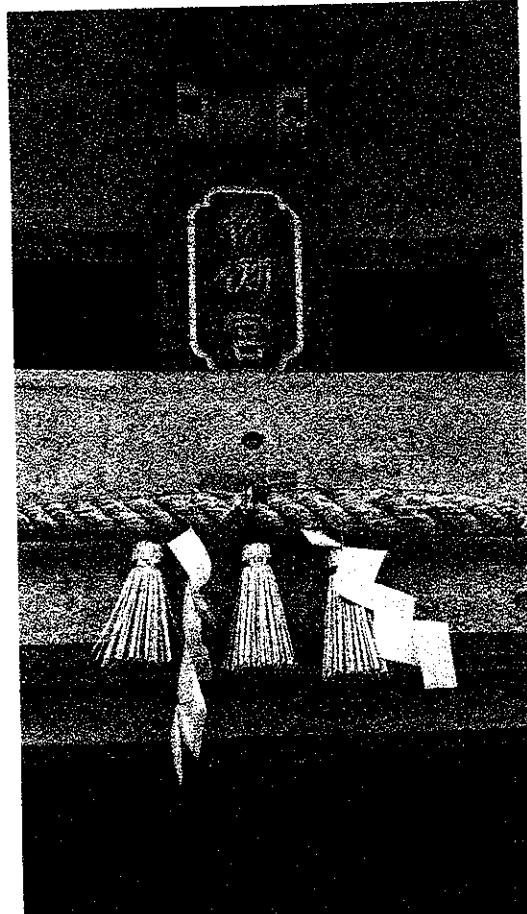
鳥居



額の拓本

める大事なお宮」という意味になり、埋葬品からしてうなづける神社（お宮）の名前になる。時代が下って、吉備津彦命が楯築神社（遺跡）に陣を

張った折、立石を楯として使い、更に楯を補強したとされていることから、楯築神社（楯を築く神社）と呼ぶようになったと想像される。



鳥居の額と注連縄

### 吉備津彦命、楯築遺跡に陣を張る

吉備の中山に拠を構えた吉備津彦命にとって、温羅の棲む鬼の城の間に大河、高梁川が流れている。馬で動くにしても流れがあると不便である。そこで、吉備津彦命は、片岡山にある楯築遺跡に陣を張った。岡山大学の発掘調査以前には楯築神社に「吉備津彦命温羅対陣」という木柱が立っていた。これにより、温羅との距離も短くなり、戦いややすくなつた。

両者の中間にあるのが矢喰の岩である。伝承によれば、お互ひの矢がぶつかり合い、矢喰いの岩の周辺に落ちた。そこで、

十  
合

ジュン  
意味：なでる  
なぐさめる  
したがう

楯

ノ  
須

ショウ  
意味：大切な場所  
かなめ  
訓読み：つく

衝

宮

意味：神社  
宮殿、皇居

吉備津彦命が2本の矢をつがえて射ると、1本が温羅の目を射て、血が流れ、水を赤く染めて流れ、その川を血吸川と呼ぶようになった。そして、鯉



矢喰の岩



矢喰の岩の案内標識

に化けて川を下った温羅を、鶴に化けた吉備津彦命が川の傍にある鯉喰神社付近で捕らえ、岡山市

北区首部の白山神社で温羅の首を刎ねたと言われている。



鯉喰神社



御神体の安置場所

## 神社の合祀令

時代は下り、明治39年に神社の合祀令が発布された。楯築神社は近くの村社・鯉喰神社に合祀されることになり、大正6年4月12日、従来の祠を壊し、御神体を鯉喰神社に合祀した。ところが、大正7、8年になって、世界中をパンデミックに陥れたスペイン風邪が猛威を振るつた。世界中で約5億人が感染し、約5,000万人が亡くなつた。岡山県でも約52万人が感染し、約4,700人が亡くなつたとの記録が残つてゐる。

鯉喰神社のある地区からも死者が出た。医学がそれほど発達してない状況で、ワクチンもなく、おそらく感染症という認識もなかつたのではないかと思われる。何が原因か、どうするか、吉備津にある宗教法人・福田海の中山通幽氏らにも相談した。変わつたことといえば楯築神社の御神体を合祀しただけ。協議の結果、楯築神社の御神体を元に戻すこととした。急遽、添付写真の祠を作り、御神体を再び楯築神社に奉納した。

## おわりに

弥生時代末期、次の古墳時代との流れの中で、楯築遺跡の歴史的意義について述べる。

### 1) 弥生時代最大級の墳丘墓

約1,800年前、吉備地方に一帯を治める小国家的集団があった。それを治める長がおり、

権力を握つていた。墳丘墓の大きさからしてもそれが想像できる。現在も、御神体として祀られている石に掘られた弧帶文が吉備の国のあちこちで発見された土器に見られるほか、遠く出雲や畿内からも発見されている。また、形状が、後に続く古墳時代の典型的な様式、前方後円墳の魁となつた。

### 2) 墳墓の構造

墳墓は木棺木槨墓だった。古墳時代になると、吉備地方では長の墳墓は石棺が主流になっていく。弧帶文並びに副葬品に刀剣があつたことから、すでに鉄は使用されていたが、石棺を作るほど鉄の文化は進んでなかつたと想像される。

### 3) 中国、朝鮮との交流

敷き詰められていた水銀朱の量、最初の神社の名前、鉄の存在からして、中国、朝鮮と交流が行われていたと考えられる。

### 4) 鉄の文化

未だ、製鉄所跡が発見されてない。よって、鉄の加工技術はあつたものの、鉄の塊である鉄鋤（てつち）を輸入して加工する段階にとどまっていたと考えられる。

※本稿は、令和4年6月21日に開催された歴研サロンの講演内容を演者がまとめたものです。

## 令和4年度「吉備国の語り部の会」(出前講座)の活動報告

岡山歴史研究会では、令和元年度から丸谷運営委員を中心に、公民館等で会員の研究成果を県民に伝える語り部活動を実施しています。郷土を愛する皆様、郷土の歴史に興味を持って集まりましょう。以下に、令和4年度の活動内容について報告します。

講演者	会場	開催日	演題
高橋義雄	倉敷市玉島西公民館	5月11日	天皇を護った和氣清麻呂
高橋義雄	岡山市興除公民館	5月13日	渋沢栄一と倉敷出身の三島中洲の親交
丸谷憲二	西大寺みどりの図書室	5月29日	教養講座 西大寺「長沼」の深~い魅力再発見！
高橋義雄	倉敷市玉島西公民館	6月 8日	岡山表町を形成した岡山城主宇喜多直家
平茂 寛	赤磐市中央公民館	8月 7日	知つて欲しい津山の歴史と人物
岡 將男	邪馬台国遊園地(zoom会議)	8月17日	第8回 テーマ「私の邪馬台国論争」
丸谷憲二	岡山市北公民館	8月30日	金山寺会陽等、会陽の起源について
高橋義雄	倉敷市玉島西公民館	9月14日	ピール王 馬越恭平
井村圭壯	美星農村環境改善センター	9月14日	老人ホーム今昔物語
井村圭壯	金光公民館	9月16日	老人ホームの今昔入門
岡 将男	岡山市岡南公民館	9月20日	岡山城天下取り物語
伊達教夫	瀬戸内市長船公民館	10月 2日	岡山県内旧山陽道の変遷
山田良三	岡山市御南西公民館	10月11日	備前法華と大覚大僧正
高橋義雄	倉敷市玉島西公民館	10月12日	日本初の女医おいわ（岡山表町で修行）
山田良三	倉敷市庄憩いの家	10月21日	備前法華と大覚大僧正
高橋義雄	倉敷公民館	10月26日	信と誠を基に地域の活性化を招いた大原孫三郎と三島中洲
高橋義雄	倉敷市玉島西公民館	11月 9日	岡山金川城主の末裔 八千草薦
岡 将男	岡山県立図書館（岡山市観光ボランティア活動連絡会 創立25周年記念式典）	11月17日	岡山城天下取り物語
丸谷憲二	早島町立図書館	11月20日	銀山師 安原田兵衛（備中）と石見銀山
丸谷憲二	早島町立図書館	12月 4日	最古の桃太郎について 吉備津神社と吉備津彦神社の温羅伝説の違いを御存じですか
井村圭壯	玉野市立鉢立公民館	12月 7日	老人ホーム今昔物語
杉 嘉夫	岡山市東山公民館	12月 9日	池田綱政と岡山後楽園
板野忠司	岡山市御南西公民館	12月 9日	ミステリーゾーン秦の郷～古墳・神社・廃寺・渡来人～
板野忠司	赤磐市中央公民館	12月11日	二十世紀の戦場の史実と戦慄の記憶
平茂 寛	きらめきプラザ	12月11日	知つてほしい津山の人物・歴史
高橋義雄	倉敷市玉島西公民館	12月14日	種痘を広めた緒方洪庵
丸谷憲二	瀬戸内市中央公民館	12月17日	「圓福寺蔵の巨勢金岡筆十三像」と巨勢金岡 中世吉井川の流路変遷時期の明確化
平茂 寛	岡山市上南公民館	12月22日	時代小説の背景～江戸の庶民文化～
高橋義雄	倉敷市玉島西公民館	1月11日	宇喜多秀家と金沢城豪姫との280年の愛
丸谷憲二	岡山市興除公民館	1月12日	銀山師 安原田兵衛（備中）と石見銀山
丸谷憲二	赤磐市中央公民館	1月15日	足利尊氏と備前国
丸谷憲二	岡山市西大寺公民館	1月21日	中世吉井川の流路変遷時期の明確化
杉 嘉夫	岡山市北公民館	1月30日	池田綱政と岡山後楽園

※語り部の会についてのお問い合わせは丸谷憲二運営委員まで。

電話：090-6837-1615

メールアドレス：yanagirousi@gmail.com

## 岡山歴研 歴史探訪会ご案内と申込み

**「京都・謎の秦氏ゆかりの地を訪ねる」**

主催 岡山歴史研究会

コロナ禍で延期していた「京都秦氏ゆかりの地」への歴史探訪会を、初夏5月末に貸切りバスにより開催いたします。広く皆様方のご参加・申込みをお待ち申し上げます。

## 記

探訪先：京都市内

日 時：令和5月26日（金） 7:00～20:00（雨天決行）

新型コロナウイルス感染症の状況によっては変更することもあります。

定 員：49名（先着順、定員になり次第締切り）

集合場所&amp;時間：次の2か所の内、いずれかを指定ご連絡下さい。

倉敷駅北口高速バス乗降場	6:45
岡山駅西口バス乗降場	7:45

帰着時間：岡山駅 19:00 倉敷駅 20:00頃

参加費：7,000円 変わる可能性もあり（昼食弁当付き）当日集金

キャンセルした場合の負担金（後日徴収）

開催の7日前5/19～2日前5/24は5,000円 前日5/25～当日5/26は6,000円

案内講師：歴研山田良三事務局長、歴研板野忠司サロン委員長

〈探訪コースと概要〉 以下のコースを順次巡ります。

- ①「嵐山・松尾大社」秦氏の氏寺、大杉谷の磐座がご神体。幹部神職は秦氏。
- ②「嵯峨愛宕町・愛宕神社」大宝年間に白山の開祖、秦澄により朝日峰に神廟を創建。
- ③「太秦・広隆寺」秦河勝が聖徳太子から賜った弥勒菩薩が本尊。本堂に聖徳太子像を安置。
- ④「太秦・大酒神社」秦始皇帝、弓月の君、秦酒公を主祭神とする神社。
- ⑤「伏見・伏見稻荷神社」和同4年2月の初午に秦伊呂具により稻荷大神が鎮座。

参加ご希望の方は氏名、住所、電話番号、バス乗車駅を明記の上、電話、Eメール、はがき等でお申し込み下さい。また、同伴者のある場合は連名で同様にお申し込み下さい。

申込み先&  
連絡先 

・電話	：工藤 博 090-5690-6533
・Eメール	：工藤 博 dcmw8d3v87426@4d3.gmobb.jp
・はがき	：工藤 博 〒710-0803 倉敷市中島 2007-8

\*\*\*\*\* 申込書切り取り \*\*\*\*\*

・氏 名 (会員、一般 いずれかに○印)

・住 所 〒

・バス乗車駅 いずれかに○印（岡山駅西口バス乗降場、倉敷駅北口高速バス乗降場）

・電話番号

（追伸）当旅行に関連し、事前に3/24（金）13:30より岡山市ゆうあいセンターで秦氏についての勉強会を開催いたします。探訪会参加有無に関わらず参加できます（資料代200円）。勉強会に参加して頂ける方は工藤博までご連絡下さい。

# 歴研サロンが開催されました（会場はいずれもゆうあいセンター）

令和4年9月18日（日）

## 「日本の原子物理学の父 仁科芳雄博士」

講師 公益財団法人 科学振興仁科財団 理事・事務局長 田主裕一朗 氏



田主氏は仁科博士と同じ里庄町の出身で、物理学を専攻された理学博士であり、里庄町が作った科学振興仁科財団で活躍されている。当時は、日本の原子物理学の父とも言われる仁科芳雄博士の経歴や偉大な業績について、一般人にも大変わかりやすく講演され、16名が興味深く拝聴した。歴研サロンとしては初めての理系（物理学）関連の講演ということもあり、参加者がやや少なかったのは残念であった。

仁科博士は明治23年（1890）に現在の里庄町に生まれ、東京帝国大学工科大学電気工学科を首席で卒業後理化学研究所（理研）に入り、同時に大学院で物理学を学んだ。大正10年（1921）から7年間欧州に留学し、特にデンマーク・コペンハーゲン大学教授で量子論の創始者ニ尔斯・ボアの研究室の自由な「コペンハーゲン精神」の影響を強く受けた。量子力学の誕生に立ち会った唯一の日本人であったという。

帰国後、昭和6年（1931）から理研で研究室を主宰し、朝永振一郎など数多くの弟子を育て、日本の現代物理学研究の発展に尽くした。昭和12年（1937）には日本初のサイクロotron（加速器）を作った。昭和20年（1945）、原爆投下直後の広島に入り、新型爆弾が原爆であると断定した。翌年には理研所長に就任した。

昭和26年（1951）に逝去されたが、日本のノーベル物理学賞受賞者12名のうち、実に7名が仁科博士からつながっているとのことである。仁科博士はまさに岡山県が生んだ物理学の最大の巨星であったと言えよう。

なお、財団のある仁科会館（里庄町大字浜中892-1、電話：0865-64-4888）は、平成元年（1989）に仁科博士の生家の近くに設置され、関係資料が展示されるなど次代を担う青少年に科学する心を育むための施設になっている。機会があれば、お子さんやお孫さんと一緒に訪ねてみられてはいかがだろうか。（井上知明）

令和4年10月30日（日）

## 「プーチンのウクライナ侵攻を考える－世界史の視点から－」

講師 元岡山朝日高校校長 柴岡 元 氏



28名が参加。歴研サロンとしては初めての、外国で現在進行中の事象（ロシアによるウクライナ侵攻）に関する講演会になり、今回の侵攻がなぜ起きたのかについて、世界史的な視点からの興味深い解説があった。

プーチンはピョートル1世（大帝、在位1682～1725）、エカチェリーナ2世（在位1762～96）を崇拜しており、それはこの2人が大ロシア帝国を作ったからである。プーチンの戦略は、共産党なきソ連の復活であり、ロシア帝国の再現である。

東スラブ族としてのウクライナとロシアの歴史的関係については、原点にルーシー族（ロシアの古名）によるキエフ（キーウ）公国（9～13世紀）の建国がある。その後のモンゴルの侵攻により、東スラブ地域はボーランド、オーストリア、オスマン帝国、モスクワ大公国に分割され、ウクライナの地は「小ロシア」と呼ばれるようになった。

ウクライナの国家形成は20世紀のロシア革命までなかつたとも言えるが、その視点に立てば、キエフ公国はウクライナ史ではなくロシア史の原点に位置する。

プーチンはウクライナに対して宗主国意識を持っている。2014年にクリミア半島を併合した理由として、①ロシア系住民からの支援要請、②親ロ派政権の崩壊、がある。放置すれば黒海がNATOの海になるかもしれないという恐怖感による。そして2019年、ウクライナは憲法を改正してNATO加盟を要望した。このことはプーチンにとっては裏切りであり、今回のウクライナ侵攻はゼレンスキーポークの打倒が目的であったと説明された。

今なお続いているロシアのウクライナ侵攻について、背後にはそれぞれの国家成立の経緯など歴史的背景があることが理解できた。侵攻したプーチンが悪いのは間違いないが、ロシア側のみが100%悪いのかと言えば、必ずしもそうとは言えない部分もあるように思われる。本講演を聞いて、単に当事国の歴史を見るだけではなく、世界史的な視点から幅広く考察することの重要性を痛感した。（井上知明）

令和4年11月29日（火）

## 「倉敷郷土史 見て歩き」

講師 郷土史家 杉原尚示 氏



参加者は27名。まず最初に、「倉敷の地名は蔵屋敷からではない？美観地区はいつ？倉敷川の水源は？」と、興味津々の話題から始まり、引き続いて自ら現地を歩いて体験した倉敷の郷土史をピックアップされた。

「吉備の穴海」の倉敷の古代は、陸地と島々の村に条里制の跡があり、北は古墳群や寺院のある吉備国を中心地、南の水島・児島・玉島周辺は海に臨む製塩跡や遺跡の存在など、倉敷が古くから栄えた固有の文化を所持していたことがわかる。平安時代では、古今和歌集の歌人小野小町が病気治療で訪れた伝説がある帯江の「小町井戸」のロマンも披露。さらに源平合戦の主戦場として、唯一平家の勝った水島合戦と、源氏の佐々木盛綱が勝利し御崎神社を建てた藤戸合戦は、日本の武家政権の帰趣につながると解説された。

江戸時代に入ってからも、備中は小大名と旗本が多い状況にもかかわらず、進取の気性で帯江・茶屋町・亀山干拓などの新田開発に取り組み、インフラ面でも大きく発展した。また、石見銀山の新坑道を発見し石碑建立のある安原備中守と中帶江の家老屋敷は、当時の人才・勢力の強さを示しているという。

さらに明治以降も、藤戸干拓、水島干拓などの新田開発が行われ、現在の発展の礎を築いた。最後に水島の戦災の禍根と、終戦後の特攻隊員・神社澄さんの自爆、水島の公告問題は、今なお衝撃的な事実で、郷土史として楽しむどころか、「歴史に学べ」との警鐘であった。

最後に、古代から現代に至る倉敷の郷土史事案は多くの先人の苦労と知恵の賜物であり、相互につながる不思議の連続であると締めくくられた。マスコミ（RSK）出身の郷土史家として、わかりやすい口調で講演された。

(板野忠司)

### お知らせ 会則が改正されています。会費滞納に御注意を。

令和4年度の総会で会則が改正され、退会規定が追加されました。

「会費を2年以上滞納した者は本人に確認の上、退会者とする。」となっていますので、御注意ください。

### 編集後記

本号には、会員の井上秀男氏による「日蓮宗と不受不施派」という論考を掲載した。妹尾千軒皆法華という言葉があるように、岡山県内には日蓮宗（法華宗）の寺院が多いが、その理由として大覚大僧正の存在が大きかったこと、また、大覚大僧正をはじめ、寺院関係者に中央（京都）との関係が濃密な人が多いことなどがよくわかつた。

「楯築遺跡と吉備津彦命の時代考察」は、昨年6月の歴研サロンの内容を演者（楠敏明会長）にまとめていただいたものである。楯築遺跡は本格的な古墳のさきがけとなる弥生後期後半の重要な墳丘墓であり、邪馬台国との関連性を唱えている方もおられる。本論考では、吉備津彦命が温羅と戦ったという伝承との関係や、スペイン風邪の流行により御神体の合祀を元に戻したことなど、楯築遺跡の地元の方ならではの興味深い話題も取り上げられている。

歴研サロンについても、昨年秋には新たな試みがあった。原子物理学者の仁科芳雄博士に関する企画

裕一朗氏の講演、及びウクライナ侵攻を世界史的視野から考察された柴岡 元氏の講演は、それぞれ物理学関連、世界史関連ということで、分野としては初めての興味深いものであった。歴研サロンのテーマとしては当然ながら県内の歴史、特に古代史関連のものが多いのだが、時にはこのようにウイングを広げていくことが、マンネリズムを防ぐという意味からも重要であると思う。

(井上知明)

発 行	岡山歴史研究会
会 長	楠 敏明
編集長	井上知明
事務局	〒700-0973 岡山市北区下中野350-121 コープ東浦北棟202 山田良二方 電 話 090-1033-3327 (携帯電話) F A X 086-806-2525 メール rekiken.okayama@gmail.com ホームページ <a href="http://b.okareki.net/">http://b.okareki.net/</a>